

# No. 1195

## 「連合時代」幕開け

490 88.7

11月15日公示された第34回総選挙は激しい選挙戦を終え、12月5日国民の厳しい審判をあおいだ。新自由クラブを結成してはじめて迎えた選挙に予想をはるかに上回る当選者を出し、終始、歓声と拍手に包まれた新自由クラブ本部。河野代表は「選挙は市民の要求にどれだけ応えていくかということがわかった」と記者会見。厳しい開票結果に共産党幹部の顔に不安と焦ら立ちの色がにじみ、党本部には重苦しい空気が広がった。宮本委員長は顔のしわも深く「思ったよりも当選者が少なく、はっきりした後退、敗北とみられてもやむを得ない」とまゆを寄せ敗北宣言。意気揚々と党本部に入場する春日民社党委員長。次々と当選の報が入るたびに「よしよし」「いいぞ、いいぞ」のかけ声が響く。春日委員長が赤い大きなダルマに目を入れ勝利の宣言。至極ごきげんなムード。大きな目玉をギョロリと光らせた竹入公明党委員長。細い目をさらに細めた矢野書記長。「歴史的な勝利だ」の声があちこちにあがる。念願の50議席を突破し「公明党が各地で自民と争って勝ったことによって自民の単独過半数維持を防いだ」と自費野党共闘の主導権を積極的にとっていく姿勢を表明した。公明、民社、新自由クが躍進する中で125議席の最終目標に近づかない票の伸びに成田社会党委員長もイライラ。新人が伸びたものの、江田副委員長や佐々木元委員長、勝間田前委員長ら大物が相次いで落選。「これから活力のある党造りに取り組む」と語った。新潟県・長岡市、長岡市を中心とした第三区は田中前首相の選挙区。田中候補は全地域をくまなく歩き選挙民との対話をしたそこにはロッキード事件の陰はなく、地元民へ尽す田中候補の批判票とはなり得なかった。惨敗を喫した自民党、虚脱感が党内を包む。やっと姿を見せた三木首相は「国民の審判は予想以上に厳しかった。自民党はかってない非常時代を迎えた」と厳しい表情を崩さなかった。こうして政局は試練の“連合時代”の幕をあけた。